

## “思い出のメロディーや音楽”

石原靖造

今月のテーマは私にとっても色々と思ひ出がありますので、振り返って見る事にしました。先ず小学生の頃ハーモニカが好きで、よく学芸会等で皆の前で吹いたのを覚えています。曲は確か“月の砂漠”でした。

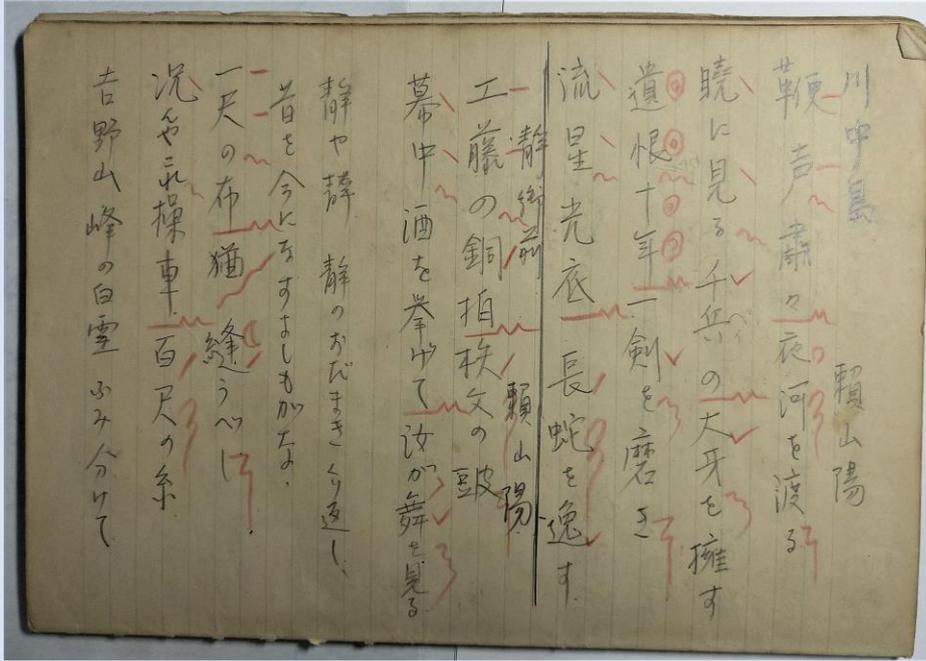
中学・高校時代は聴く事が多く、それも奥の深いクラシックではなく、比較的軽快なものが好きでした。ワルツでは“ドナウ川のさざ波” “ウイーンの森の物語” “スケーターワルツ”、行進曲ではアメリカの“星条旗よ永遠なれ” イギリスの“威風堂々”等で、特にこの“威風堂々”は私の好きな一曲です。

大学に入ってから私の音楽との関りは一変しました。父の知人から国風流詩歌吟詠会の宗家・松本国風先生を紹介され、その魅力に引かれ入会する事になりました。宗家直々の指導受けた事もあり、可成り熱が入ったのを覚えています。

毎年大会があり、私も宗家のカバン持ちで参加しました。写真はその時のもので、宗家は前列中央、私は三段目右から四人目です。学生服は私一人です。



医師会館を借り切ったの全国大会で順番に詩吟を披露するのです。私も“川中島”をやりましたが上がってしまい、全く調子が出ず大恥掻いたのを覚えています。



通称“川中島”は頼山陽の作で、ご存知の“鞭声肅々”で始まるあの詩ですが、正式な題名は“不識庵(上杉謙信)機山(武田信玄)を討つての図に題す”とあります。

詩の朗詠では島崎藤村の“千曲川旅情の歌”がお気に入りです。今でも時々口ずさんでいます。教材は写真にあります様に手書きの詩に宗家が節回しの

符号を打って下さると言うものです。この国風会も後継者が居なかった事もあり、解散を余儀なくされたのは残念でなりません。幾多の詩で埋まったこの古いノートは、今でも私の宝物です。

時は流れカラオケの時代がやって来ました。色々な歌に魅せられ、聴く事も歌う事も大いに楽しんで来ました。好きな曲は千昌夫の“あんた”、佳山明生の“氷雨”、前川清の“長崎は今日も雨だった”等です。気が付けばどれも男性歌手が歌う女心の歌でした。好きな歌手は同じ大阪は阿倍野の出身と言う事もあり、文句なしに堀内孝雄です。“竹とんぼ” “続・竹とんぼ” “愛しき日々”等々沢山あります。

或るカラオケの席で“海外に居たから何か英語の歌を”と乞われ、何も歌えなかった事に発奮し、懸命に覚えたのが“My way” “Stranger in the night” “You don't have to say you love me”(“この胸のときめきを”)の三曲です。最後の“私を好きだなんて言わないで”が何故尾崎紀世彦が歌うと“胸のときめき”になるのか、未だに理解出来ないでいます。

以上 私の音楽との関りを書かせて頂きましたが、これからも音楽を永遠の友とし、共に歩んで行きたいと思っています。唯、時代の流れとは言え、以前はよく耳にした詩吟や詩の朗詠が、最近では殆ど聴こえて来なくなったのは残念でなりません。

(完)

令和四年六月十六日